

KIYOSHI YAMASHITA



特別展
生誕100年

百年目の大回想

山下清(男)「アリス」による展覧会、1940(昭和15)年 © Kiyoshi Yamashita / STEPPART 2022

2022年 6月25日(土)～8月28日(日) ※新型コロナウイルスの影響で
変更場合があります。

開館時間 10:00～18:00(入館は17:30まで) 休館日 月曜日、7月19日(ただし7月18日は開館)

観覧料 一般 1,000(800)円、大学生・神戸市外在住の65歳以上 500(400)円、高校生以下・神戸市内在住の65歳以上 無料

※()内は有料入館者30名以上の団体料金。※神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入館券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。

主催/神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社 後援/サンテレビジョン、ラジオ関西
協力/山下清作品管理事務所 企画協力/ステップ・イースト 展示協力/大阪樟蔭女子大学

K 神戸ファッション美術館
KOBÉ FASHION MUSEUM

特別展

「生誕100年 山下清展—百年目の大回想—」

2022.06.25 (土)～08.28 (日)

企画概要

山下清は1922（大正11）年、東京・浅草生まれ、18歳で放浪の旅を始め、記憶に残った旅先での風景を緻密で色鮮やかな貼絵に描き、「放浪の天才画家」と称されました。

本展覧会では、「日本の原風景」と称される代表的な貼絵を中心に、独特な手法で描かれた油彩、水彩画、ペン画、少年期の貴重な絵など、初公開作品も含めて約170点展示します。

サブタイトル「百年目の大回想」とあるように、今までドラマ等の中で語られていた山下清像を再検証し、フィクションではない芸術家としての山下清の真の姿を追求します。

激動の昭和を自然体で生き抜いた山下清。「今年の花火見物はどこに行こうかな」の言葉を最後に49歳で亡くなった天才画家の生涯をたどります。

山下清プロフィール

1922年生まれ。東京出身。「放浪の画家」で知られている。

幼少期に患った重い消化不良により、完治後、軽い知的障害となる。10歳頃から知的障害も顕著になり、周囲からのイジメに合う。

12歳で八幡学園に入園。学園教育の一環として「ちぎり絵」に出会い、画才を開花させ「貼絵」へと発展させていく。少年期に創作した初期の傑作が生まれたのもこの頃である。

1940年、18歳の時に八幡学園から突然姿を消し、日本中を放浪し始める。学園での生活から自由になりたかったことが契機となり、兵役検査から逃れるために放浪に出たのである。

▶ 次頁につづく

展示構成

- 1 章 山下清の誕生—昆虫そして絵との出会い
- 2 章 学園生活と放浪への旅立ち
- 3 章 画家・山下清のはじまり—多彩な芸術への試み
- 4 章 ヨーロッパにて—清がみた風景
- 5 章 円熟期の創作活動

気ままな放浪を続けていた 1953 年、31 歳の時に、アメリカのグラフィック誌『ライフ』の記者が、彼の少年時代の「貼絵」を見かけたところ、その天才ぶりに驚き、放浪中の清を捜し始め、新聞の搜索記事によって翌年に鹿児島で発見される。

清は、放浪中には絵を描いていなかった。彼は驚異的な記憶力の持ち主で、数ヶ月から数年に渡る放浪生活中に見た景色などは克明に記憶しており、放浪から戻ってくる度にそれらを思い出して作品を制作した。作品は貼絵の他に、油彩や水彩画、陶磁器の絵付けなど、様々な手法による作品を残した。

1956 年、34 歳の頃に開催された東京の大丸での個展では 80 万人を動員した。その後、全国でも個展が開かれ絶賛される。作品はもちろん、彼の話す言葉や人柄は多くの人を惹きつけた。

1971 年、49 歳永眠。花火のような一瞬の輝きで昭和という激動の時代を駆け抜けた人生だった。

主な展示作品



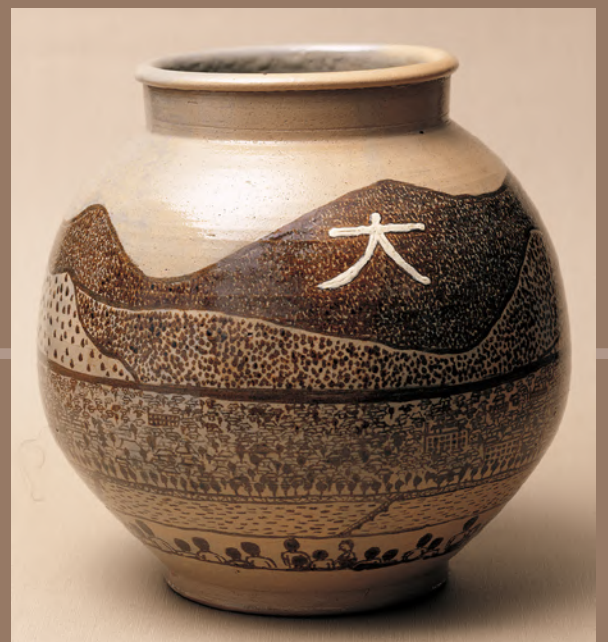
《蝶々》貼絵 1934(昭和9)年



《自分の顔》貼絵 1950(昭和25)年



《ロンドンのタワーブリッジ》貼絵 1965(昭和40)年



《大文字焼風景(牛ノ戸焼)》鉄釉壺 1956(昭和31)年



《ラ・ムスメ(娘)- ゴッホによる》貼絵
1940(昭和 15)年



《ともだち》貼絵 1938(昭和 13)年



《夙川風景》ペン画 1956(昭和 31)年

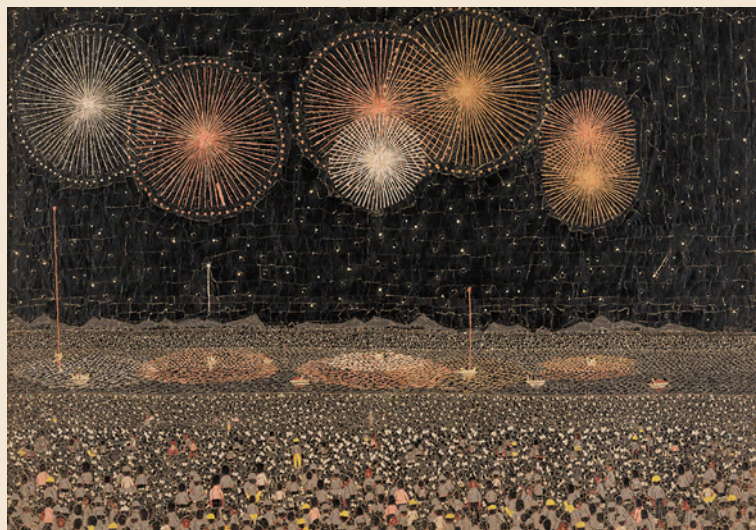


《パリのエッフェル塔》水彩画
1961(昭和 36)年

入館にあたってのお願い

- 入館時の体温測定にご協力ください
- 咳、発熱など体調不良の症状がある方は、ご入館をお断りすることがあります
- マスクの着用をお願いいたします
- 咳エチケットをお守りください
- 手指消毒にご協力ください
- 館内ではお静かにご鑑賞ください
- 近くの方とできるだけ間隔をおいてご鑑賞ください
- 感染予防・拡散防止のため、館内スタッフはマスクを着用しています

ご理解とご協力をお願いいたします



《長岡の花火》貼絵 1950(昭和 25)年
©Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2022

同時開催

ドレスコレクション展:「1960年頃のヨーロッパファッション」

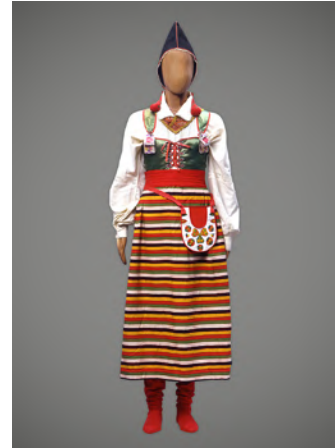
山下清は、1961年6月、ドイツ、スウェーデン、デンマーク、オランダ、フランスなどヨーロッパ十数ヶ国を旅行し、各国の観光地や美術館を訪れ風物や文化を満喫し、作品に残しました。イヴ・サンローランやピエール・バルマン、ピエール・カルダンなど、戦後の日本人のあこがれでもあった、当時のヨーロッパのモードと伝統衣装を所蔵品より紹介します。



ピエール・カルダン
デイ・ドレス 1961年



ピエール・バルマン
イヴニング・ドレス「シャンボールのタペ」
1961年



ドレス
スウェーデン 20世紀前半

特別展

「生誕100年 山下清展 一百年目の大回想」

2022年 6月25日(土)～ 8月28日(日)

開館時間 10:00～18:00 (入館は17:30 まで)

休 館 日 月曜日、7月19日 (ただし7月18日は開館)

新型コロナウイルスの影響で変更場合があります

入 館 料 一般 1,000 円 (800 円)

65 歳以上・大学生 500 円 (400 円)

高校生以下無料

※ 神戸市内在住の 65 歳以上の方は無料です。

※ カッコ内は有料入館者 30 名以上の割引料金です。

※ 神戸ゆかりの美術館、小磯記念美術館の当日入場券(半券)をお持ちの方は割引が受けられます。

主 催 神戸ファッション美術館、神戸新聞社、毎日新聞社

後 援 サンテレビジョン、ラジオ関西

協 力 山下清作品管理事務所

企画協力 ステップ・イースト

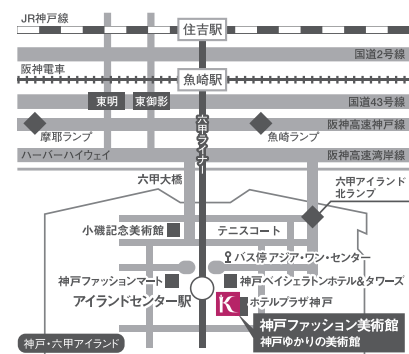
展示協力 大阪樟蔭女子大学

お問い合わせ(広報担当)

TEL: 078-858-0050

FAX: 078-858-0058

Email: press@fashionmuseum.jp



アクセス

▶ 電車ご利用の場合

JR「住吉駅」・阪神「魚崎駅」で六甲ライナーに乗換、「アイランドセンター駅」下車 南東徒歩 3 分

▶ お車ご利用の場合

阪神高速神戸線「摩耶」・「魚崎」ランプから約 10 分
阪神高速湾岸線「六甲アイランド北」ランプから約 2 分
三宮からハーバーハイウェイ経由約 15 分

※ 当館地下の神戸ファッションプラザ駐車場のご利用が便利です
(利用料金: 20 分 100 円・1 日最大 550 円)



〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中 2-9-1
<https://www.fashionmuseum.jp>